



投稿少女

春風葉
illustration.com

Uploading
Girl's Works

Courreges 4
コレクション



ふちばら文庫



【美少女投稿サイト】 バラタイム ホームページ
http://www.pantabook.co.jp/video.html
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 拡張に入力(A) ツール(T) ヘルプ(H)
投稿者: misa XX/XX/XX(X) 20:35:12
あたしの部屋にカレを連れ込んで撮影会。
さすがにキンチョーしたー。(^^^A
カレに愛撫されて、だんだん興奮してきちゃって。
思わずカレに舐めてほしいなんて頼んじゃって。
アソコを間近で見られて、恥ずかしかったけど感じちゃった。(^^^A
そして濡れてきたアソコにカレのおチンチンが入ってきて……。
ものすごく痛いのかと思っていたけど、そんなでもなかったの。
でも、やっぱりちょっと痛かったかな。(^^^A
カレのおチンチンが入り出していくうちに、
だんだん熱くなってきちゃって。(##^A#)
最後は中にいっぱい出されちゃった。
避妊してなかったから、ちょっと心配だけど……。
でもドピュドピュ中に出る感じて、ちょっとクセになりそう。

と、ジッパーを下ろした。

「あつ……」

ズボンの中で窮屈にしていたペニスは、まるで弾けるかのように飛び出した。反り返った肉棒を軽くしごく、ミサは自らのショーツへ導いていく。

「この熱いのを……擦りつけて……」

その眩きと共に、カオルのペニスに柔らかな感触が触れた。

「あつ……」

薄い布越しに感じるミサのオマ○コに、カオルの股間は更にいきり立っていく。

「すごい……また大きくなって……すごく熱いわ……」

ミサは高揚した声を漏らすと、肉棒を求めるように腰を前後させた。

「か、会長……」

それに応えるようにカオルも、反り返った肉棒をミサの股間に激しく擦りつけた。

割れ目をなぞるように亀頭が動くと、ミサの身体はビクンと跳ねた。

「あふっ……んんんっ！ あつ……ああんっ……」

甘い吐息と喘ぎ声を漏らしながら、ミサは悩ましげに身悶える。

その度にカオルのペニスは擦り上げられて、ドクンドクンと脈打った。

「うっ……あつ……会長……き、気持ちいいっ……」

「あ、あたしも……固いのが当たって……食い込んできて……んっ！ あつ、はあんっつ！
そ、そんな動いたら……あうっ……んっ、んんんっ！」

お互いが快楽で悶えれば悶えるほど、擦りつけられる状態。

肉棒は先っぽからネットリとした我慢汁を溢れさせ始めた。

それがミサのショーツに、べつとりとこびり付いていった。

「はあっ……んん……こ、こんなに……溢れさせて……やっぱり杉浦君、変態ね……」

「せ、生徒会長だって……乳首、固くなってきてるよ……」

カオルは耳元でそう囁きかけると、服越しに尖った乳首を指先で転がした。

「あつ……はあんっ……んっ、くうう……あつ……あああああ」

乳首を刺激されたミサは、小刻みに身体を震わせた。

肉棒が前後する度に、ショーツから、熱い雫を滴らせる。

「汁が溢れてきてますよ……すごくヌルヌルしてきた……」

「し、しかた……ないでしょ……んんっ……き、気持ちいいんだ……から！」

少し拗ねた感じでそう眩きながらも、ミサは太股でカオルの勃起した肉棒を挟み込んで

前後し続けた。

「あうっ……か、会長……そ、そんなに激しく……腰を振られたら……」

素股でしごかれるペニスはビクビクと痙攣し、今にも爆発しそうな感じだ。

それを察したのか、ミサは太股をギュッと締めて、肉棒に込み上げてくる感覚を強引に抑え込んできた。

「ま、まだよ……もつと……もつとお……」

ミサは激しく腰を使って、脈打つ肉棒を股間に擦りつけまくった。

「あうっ……うっ……ううっ！」

その度にペニスは先っぽから汁を溢れさせて今にも果てそうになった。

「んっ……あつ！ す、すごい……脈打って……あんっ……ああんっ」

興奮してきたのかミサの息づかいは荒くなる。

そんなミサの乳房をカオルは激しくこね回しながら、責め立てるように腰を使つた。

「か、会長っ……うっ……んんんっ！」

「杉浦くんっ……あつ……はあん」

挿入はしていないのに、まるでセックスをしているような感覚。

本番は無しという約束だけに、この快感はふたりにとつて至福の快楽になっていった。

「ああ……いい、いいの……気持ちいい……んはっ！ あつ……あああああ」

「僕も……気持ちいいです……か、会長……」

「だ、だったら……もつと激しく……」

「わ、わかりましたよ……」



カオルは強く勃起した肉棒を必死にミサの秘部に押しつけながら、柔らかな乳房をこねくり回し続けた。

「杉浦くんっ……あ、あたし……いきそ……うっ……んんっ！」
「……僕も……そ、そろそろ……」

擦れ合う股間がどんどん熱くなっていく。

溢れ出た汁がクチュクチュと淫らな音を派手に立てた。

「僕も……もう……で、出るっ……あ、うううっ……」

高まる興奮のままに互いの性を擦り合わせまくる。

その度に肉棒は割れ目に埋まりながら、何度も何度も跳ねた。

「んあっ！ んんっ！ いっ、いいっ！ いくうっ！ んはっ！ あはあああっ！」
「うっ……ううううっ！」

ミサが絶頂に身を反らすと同時に、カオルも込み上げてきた快楽をぶちまける。
白濁した飛沫が、ミサの下着にべつとりとこびり付いていった。

「ああああ……あ、熱いの……いっばい……あふうん………」
「くっ……ううう……」

カオルは込み上げてくる感覚に任せ、腰を突き出して何度も何度も射精を繰り返した。
その度にミサの下着は、どろどろに白く汚れていく。

「す、すごい……い、いっばい出てるっ……そ、それにこの匂い……あああ……いいっ」
「か、会長……っ！ ううううっ！」

「……ああ、スースーする」

精液と愛液にまみれたショーツを脱いだミサはそう言いながら、こもった匂いを出す為に窓を開けて換気をした。

ノーパン姿で歩き回るミサに、カオルはドキドキしながらも呆れてしまった。

「……大胆ですね」

下半身丸出しで窓を開けるなど、肝が据わっているとしか言いようがない。

いや、露出好きのミサのことだから、見られたいという願望なのかもしれない。

「そう簡単に見えないわよ」

ミサはあっけらかんとそう言っただけで、下を覗き込んだ。

下校時間が近くなっているにも関わらず、グラウンドにはまだ人が多い。

「まだ結構、人残ってるね」

「そりゃまあ、文化祭前ですから」

そう素っ気なく答えたカオルに見せつけるかのように、ミサは指についた白濁液を舐めとっていく。

「んっ……んんっ……変な味……」
指を舐める舌が、何ともいやらしい。

そんな姿を見ていると、果てたばかりだというのに、カオルの股間は思わずビクッと反応してしまった。それを見ながら、おもむろにミサは妙なことを言い出した。

「そうだ、カメラ回して画面見てなよ」

「えっ……？」

「いいからいいから、要求よ」

「は、はい……」

カオルは言われたとおりにカメラを回して、液晶画面へと目をやった。

すると画面の中のミサはこちらに近づいてきて、カオルが座っている席の下へと潜り込んできた。

「ちょ、ちよつと……!？」

「ちよつと黙ってて」

ミサは慌てるカオルとは対照的にキッパリとそう言うのと、股間に顔を近づけて上目遣いで見つめてくる。

「ねえ、要求してみない？」

「……強引ですね」

「積極的なだけよ。だって杉浦君、ちよつと淡泊だから」

ミサはそう言いながら、肉棒を指先で刺激してきた。

「いいじゃないですか、淡泊だって……」

少し不機嫌な感じでそう言ったカオルに、何もかも見透かしているような顔でミサが告げてきた。

「あら……本当にもう満足なのかな？」

そう言いながら、股間にぶら下がったモノを指先でつついてくる。

「ちょ、ちよつと……」

指が触れると、萎えたはずのペニスがビクンと跳ねた。

それを見てミサは、不敵な笑みを浮かべた。

「本当にコレは、満足しちゃってるのかなあ？」

「や、やめてくださいよ、会長……」

そう言ってもミサは聞く耳を持たずに、カオルの肉棒を指先で弾き続けた。

その度に一度果てたペニスが、ピクピクと反応してしまう。

「うふふふっ」

ミサは面白がるように、カオルのモノを指先で弄びながら言った。

「ほらほら、正直になった方がいいんじゃない？」



「うううっ……」

確かに、まだ満足していない。もつとミサと淫らな行為をしたという欲求がある。でも、それをミサに見透かされている感じが、男としてちよつと情けない気がする。「さあ、どうするの？ 一回出したぐらいじゃ、本当は満足できないんじゃない？」ミサはからかうような口調で言いながら、なおもカオルの股間を弄くり回した。

「うううっ……………」

「早く、白状しちゃった方がいいんじゃないかな？」

誘惑してくるミサに、カオルは無言でこらえた。

カオルが何も言わずに黙っていると、ミサは少しむくれた表情をした。

「……いいよ、もう。勝手にするから」

「か、勝手にするって……？」

「こういうこと……うふふふっ」

ペニスを握ると、まだ精液がこびり付いた亀頭を掃除するように舌を這わせ始めた。

「……んちゅっ……んっ……んふうん……んっ……ううう」

「ちょ、ちよつと!？」

動揺するカオルをあざ笑うかのように、ミサの舌がペニスの上を滑った。

「んじゅる……んんっ……むっ、ううっ」

「あっ……ううっ！」

生温かい感触に、カオルの口から思わず声が漏れた。それを聞いたミサは笑みを浮かべて、カオルを見た。

「んちゅ……んふっ、してほしいんでしょ？ ほらほら、無理しないで」
言いながら、肉棒を舌先で転がすように舐め回す。

その刺激に股間のモノは、ゆっくりと立ち上がっていった。

「ほら……もう、こんなになっちゃってるし……んちゅっ……」

「あっ……うっ、うっ」

ゾクゾクする感覚が走る度に、陰茎は太さと固さを増していく。

「そろそろ素直になった方がいいんじゃない？ 無理しないで」

「べ、別に……無理なんて……」

とりあえず強がってはみたものの、股間を膨らませて言っても全く説得力がなかった。

ミサは意味ありげな笑みを浮かべると、芝居がかった口調で告げた。

「あら、そうなの？ それじゃあ……ううむっ……んっ……んちゅ……むふう」

ミサは完全に焦らす気満々で、肉棒にキスを繰り返した。

「あうっ……あっ！」

柔らかな唇が亀頭に触れる度に、鋭い快楽がカオルを襲う。

「ほらほら……ちゅっ……ふうん……んじゅる……むううっ……」

くすぐったいような、何とも言えないこそばゆい快感にカオルは思わず身悶えた。

「んふふっ……れろれろれろ……んちゅ……んっ……ふうん……むうん……」

舌先と唇が、まるで鳥がついばむようにペニスに触れる。

その度に、股間にウズウズするような感覚が走った。

「裏の方もしてあげるね……んっ……んんっ……」

「そんな……あっ……ああ……」

「この辺なんて……どう？ ちゅっ……んんんっ……」

ミサの舌先が裏筋を撫でるように滑っていく。

「やめっ……あうっ……ううう……」

ゾクッとする感覚に、思わずカオルの口から情けない声が漏れた。

「無理してないんでしょ？ んふっ……れろれろ……んっ……んふうん」

「あうっ……うっ……あうう」

敏感なところを責められて、ペニスが生き物のように跳ねる。

ミサに唾えてほしくて、肉棒がピクピクと動いた。

完全に生殺し状態だった。

そんなカオルを上目遣いで見つめながら、ミサは焦らすように唇の愛撫を続けた。

ぶちばら文庫

投稿少女

(とうこうしょうじょ)

2011年 3月 10日 初版第1刷 発行

■著 者 春風栞
■イラスト じろう・牧だいきち
■原 作 クレージュA

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えます。

定価はカバーに表示してあります。

©SHIORI HARUKAZE ©CourregesA

Printed in Japan 2011

PPO11

入箱 Virgin Territory 少女



表紙は「じろう」氏の
描き下ろしです!



無垢なお嬢様は、
脅され犯され穢される……

ぶちばら文庫16

春風葉 著

じろう 画

クレージュA 原作

定価 670円(税込)

4月 発売予定

Courrages A
ぶちばら文庫

ぷちぱら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。

応募規定は、それぞれ以下ようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品でお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただいても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は随時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方へのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間～1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。
メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。